



地球環境の回復により効果的な活動の推進を目指して、企業とNPO、NPO同士のパートナーシップを呼びかけています。

リコー社会環境本部
益子 晴光

コンサベーション・
インターナショナル
日比 保史 様

国際環境NGO
FoE Japan
野口 栄一郎 様

アジア緑色文化国際
交流促進会
和 愛軍 様

国際環境NGO
FoE Japan
佐々木 勝教 様

リコー社会環境本部
岸 和幸



WWFジャパン
栗野 美佳子 様

バードライフアジア
鈴江 恵子 様

C.W. ニコル・アフアの森財団
野口 理佐子 様

バードライフアジア/やんばる森のトラスト
市田 則孝 様

企業のみでは成し得ない、 地球規模の生態系保全を目指して

リコーグループは、地球環境のダメージ回復は企業使命であるとの認識のもと、以前からNPOとのパートナーシップによりグローバルな森林生態系保全に取り組んできました。このような経験から、NPOと企業とのパートナーシップは、持続可能な社会のベースを拡げる上で重要な意義があると考え、企業とNPOあるいはNPO同士のより良い連携と協働を進めるためのさまざまな取り組みをはじめとしています。一企業だけの力では成し得ない、実効性の高い生態系保全を目指すためです。

地球環境の問題は山積み。 NPO同士が連携し、戦略的に動くべき

2007年3月27日の「リコー・環境NPOミーティング」では、リコーと森林生態系保全プロジェクトを展開するNPO 7団体にお集まりいただきました。この会議は、NPO同士の情報交換を目的に行われました。会議を通じて、各NPOの活動には共通の課題が多いことがわかりました。また、NPO同士が連携し、戦略的に動くことで、より効果が大きい活動が展開できると参加者一同は期待を高めました。リコーグループは、今後もミーティングを継続し、NPOの連携のプラットフォームを提供するとともに、具体的な取り組み支援を行っていきます。

背景写真：2007年3月27日、「リコー・環境NPOミーティング」にて

WWFジャパン

粟野 美佳子 様

明確なビジョンも無いまま

(C)1986 Panda symbol WWF
"WWF" is WWF Registered Trademark



自己目的化した植林に走る企業が多い中、リコーの森林保全活動が環境問題に対する基本姿勢と問題意識にしっかりと裏付けられ、そのツールとして植林活動を位置づけられていることが改めて理解できるいい機会でした。

バードライフアジア / やんばる森のトラスト

市田 則孝 様

生態系保全には大小さまざまな課題がつきもので、各NPOはひとつずつ克服しながら活動しています。NPO同士や企業が裸で議論をしあえば、問題解決の活路が多く見つかるはず。この場を提供してくれたリコーに感謝し、今後はもっと議論を深めたいと思います。

バードライフアジア

鈴江 恵子 様

生態系保全の効果を3年5年という短いスパンで示すことはむずかしいので、企業にはもっと長い目でご支援願いたいです。今後、NPO同士の連携で、保全効果の評価指標を作っていければと思います。リコーにはそのプラットフォームを提供していただきたいです。



アジア緑色文化国際交流促進会

和 愛軍 様

欧米を本拠とする国際NPOは多いがアジアではまだまだ。しかし、生物種や自然条件が共通しているアジア圏でNPOの交流、連携が進めば、効果の大きい活動ができます。たとえば、照葉樹林や世界遺産の保全で雲南省と日本の連携などもいいですね。



C. W. ニコル・アフアの森財団

野口 理佐子 様

世界各地で、地球環境問題は山積み。NPO同士がいかに戦略的に動いていけるかが地球環境の回復にはとても重要です。個別プロジェクトの支援もありがたいですが、リコーにはNPOの連携戦略もご支援いただきたいです。



国際環境NGO FoE Japan

野口 栄一郎 様

各団体のプロジェクトが抱える問題があまりにも共通していて驚きました。普段は自分の活動のことばかりを考えがちですが、皆さんの話を聞いて自身の活動を客観的に見る視点をもてました。



コンサベーション・インターナショナル

日比 保史 様

NPOにとって、組織運営上の最大の課題は、やはり自立的な経済基盤の確立です。特に、人はNPOにとって最大の資源ですから、今後は人件費など組織の基盤に関わる課題にも踏み込み、NPOセクターの革新につながるようなパートナーシップを模索していきたいですね。



リコー社会環境本部

益子 晴光

生態系保全効果の評価指標は、私たち企業が活動支援を継続的に行う上でとても重要です。指標化にも、ぜひ協力させていただきます。今後も、皆さんとの議論をさらに深め、NPOと企業による生態系保全ネットワークの構築を目指したいと思います。

NPOと企業、立場の違いを超えた協働のあり方を探る

2006年6月20日、環境月間にちなんで開催したシンポジウムには、NPOと企業・団体の環境担当者など109名が参加しました。リコーとNPOとの取り組みを紹介し、NPOと企業の協働のあり方についてのパネルディスカッションを行いました。「企業は経済活動が専門、NPOは環境活動の専門と立場を隔てることをやめ、お互いをよく知ることで、より良い連携のアイデアが生まれる」とディスカッションは締めくくられました。参加企業の方からも「NPOの見方が変わった。NPOにもっと期待をもって、真剣に付き合っこそ、お互い目的が達せられると思った」「NPOと企業のパー

トナーシップをこれまでとは別の視点で考えさせてもらった。本音で話してくれるNPOの方たちがとても新鮮だった」などの感想をいただきました。



■第1回リコー地球環境月間シンポジウム「持続可能な社会を共創するために」
2006年6月20日 リコー本社事業所「i-Salon」
参加者：企業59名、NPO30名、リコーグループ20名の計109名
(パネリスト)
サステナビリティ・プランナー 足立 直樹 様、FoE Japan 野口 栄一郎 様、
(社)日本経団連自然保護協議会 真下 正樹 様、アサザ基金 飯島 博 様